

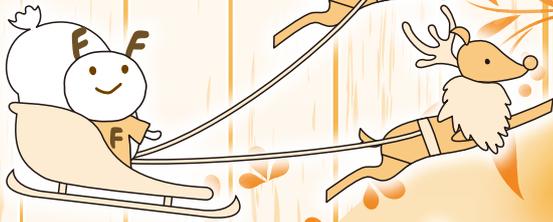
Frente

vol.75
2018.12

徹底
Report!

男女共同参画フォーラム
「女性の可能性が開く未来 男性が取り組む・変える未来」
みえの男女ひと2018

「きつとだれもが宝石のようダイアに輝ける！」



イベント Report!

- 男性講座「職場でも!家庭でも!きつと役立つ 男性のためのコミュニケーショントレーニング ~知っておきたいアサーティブ in 伊勢」
- 「見る・知る・感じる、認知症ケアの知恵ぶくろ 介護する男 ~高齢化社会と認知症に向き合うために~」
- 女性のための暴力防止セミナー 「漂流する少女たちに寄り添って」 ほか

連載!

- エッセイ 「あなたにとって大切なものは何ですか?」 柴田 佐織さん
キャリアコンサルタント、株式会社ワーク・ライフバランス認定 上級ワーク・ライフバランスコンサルタント
- フレンテスタッフ リレーコラム 「ワタシと男女共同参画」《第3回》

事業ご案内

- 国際女性デー 2019 プレイベント 手塚マキ講演会 「女性が自由に生きられる世の中へ 元ホストからのメッセージ」 ほか

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2018～

誌上徹底
Report



女性の可能性が開く未来 男性が取り組む・変える未来

同時開催 / 「第31回 農山漁村のつどい」

開催日 11月10日(土)

まだまだ男女格差の問題が根強い日本。そんな不平等を無くし、女性の可能性が開かれた社会を実現するために、「HeForShe」をはじめ、さまざまなムーブメントが起こり始めています。

今年の男女共同参画フォーラムでは、男女格差の問題を女性

だけのものにせず、男性を含む誰もが一緒に考えていくために一人ひとりが何をすべきか、ともに考えました。午後はダイヤモンド☆ユカイさんをお呼びしての「スペシャルトーク」を開催、最後には歌のプレゼントも!そんなフォーラムの様子をレポートします。

“ ダイヤモンド☆ユカイさん スペシャルトーク ”

ダイヤモンド☆ユカイさん(ロックシンガー)

聞き手:小野 美智代さん

(国際協力NGOジョイセフ 市民社会連携グループ長)



「ハロー サムシング!」と颯爽と登場いただいたダイヤモンド☆ユカイさん。小野美智代さんの進行でお話を伺いました。

ユカイさんは、女性が「自分の人生を自分らしく決めるために」とジョイセフが行っているキャンペーン「I LADY」のアクティビストとして活動されており、ご自身の経験からずっと続けられている「男性不妊」についての活動と共通する部分があると感じられているそうです。「男性不妊は6人にひとりといわれているが、学校でも『避妊』については話しても『不妊』については話さない。まずは知ってもらうために行動することが大切だと思ひ、やっている。」と話されていました。

「ロックというと『暴力』や『破壊』というイメージがあるんですが…」という問いには、「元々は大人がつくった既成概念を若者がぶち壊すというのがロックだったが、ジョン・レノンが『Love&Peace』を掲げたり、家族の日常をロックにして

歌ったりと、時代とともに既成概念のぶち壊し方も変わってきている。」とユカイさん。また、ご両親が当時としては珍しい共働きで、父が皿洗いをしている姿も見ており、「今にして思うと、イクメンの走りだったのでは。」と当時を振り返っておられました。

ユカイさんはなんと幼稚園のPTA会長をされた経験があるそうで、「自分は『へっぽこ』だが、それを応援してくれる人がいたり、自分でもできることがあると思っている。自分の立ち位置というものがあってやってきた。」とおっしゃっていました。

小野さんからは、日本はジェンダーギャップ指数(男女の格差をランク付けしたもの)が144カ国中114位(2017年)と非常に低いという現状も紹介され、「医学部入試の報道にもあるように裏で男性が優位のように数字が操作されたりと、まだまだ日本では男女差別が起こっている。国連では

「HeForShe」というキャンペーンを行っていて、ハリー・ポッターでおなじみのエマ・ワトソンさんが国連スピーチでも話しているように、『男性が女性のために』ということではなく、ひとりひとりみんなが違い、それぞれの個性として認めていく、みんなでアクションを起こしてムーブメントに参加していこうというのが「HeForShe」の本質。男と女というよりひとりの個性として、それぞれできることを考えてほしい。」とお話いただきました。

三重県では本年10月25日に「HeForShe」賛同イベントが開催され、鈴木知事やフレンテみえを運営する三重県文化振興事業団の雲井理事長などが賛同署名を行っています。「三重県は『男性不妊』も最初にとりあげてくれ、その後自分の活動も広がっていった。」とユカイさん。

ご自身も「HeForShe」に賛同署名され、「スマホから簡単にすぐできる。」と、会場のみなさんへもアクションへの参加を呼びかけました。小野さんからも「多くの人が賛同を表明することが世界を変えることにつながる。自分自身でできることは何だろうと考えてアクションを起こすことが大切。」とお話いただきました。

最後に、ユカイさんからは、「ひとりの人間として理解をもって、よりよい社会をつくっていきましょう。自分の役割や立ち位置、自分の場所が必ずあり、自分にできること、その人にしかできないことがある。ぜひ行動し、すすんでほしい。」とメッセージをいただき、ステキな歌のプレゼントにて締めくくられました。

パネル展



男女共同参画フォーラム期間中、今年もロビーにて様々なパネル展を実施しました。

三重県や各市町、企業や大学などで行われている男女共同参画に関する取組紹介や、「女性に対する暴力をなくす運動」期間にあわせて実施している啓発活動から、関連展示とミニイベント「みんなで大きなパープルリボンをつくろう」を会場にて開催し、多くの方々に取り組みについて知っていただく機会となりました。

ホールイベント終演時には、ダイヤモンド☆ユカイさんもパネル展ミニイベントに参加いただき、その様子がご本人のブログにて紹介されました。



分科会①// まちへの想いをカタチに。ススム、変わる! プロジェクト発表会

発表者/平成30年度女性のためのエンパワーメントスクール 主催/フレンテみえ
「まちへの想いをカタチに。ススム、変わる!」受講生

フレンテみえで開催中の全5回講座「まちへの想いをカタチに。ススム、変わる!」の9名の受講生が、想いの背景、今すすめていること、今後の目標などについて発表を行いました。

発表者の皆さんは、自分たちの住むまちや地域に対する「想い」の実現に向け、その想いを整理し、話し、つながり、今より一歩前にすすめていきたいと、講座の中で取り組んできました。第4回講座にあたるこの分科会での発表へ向けてお互いを支え、刺激し、

応援しあいながら、準備をすすめてきました。発表を終えた達成感と今後への情熱や抱負があふれる満面の笑顔。そして発表後の分科会参加者との自由交流もたくさんの輪ができて活発に行われ、より話を深め、名刺交換をされる様子が印象的でした。たくさんの応援の言葉を受けとり、受講生の皆さんはこの分科会が「ススム、つながる」大きな一歩、そして仲間たちとの連帯感をさらに深める機会となったようでした。



分科会②// どうやる三重の男女共同参画 ～よりん彩に学ぶ～

主催/男女共同参画みえネット 共催/フレンテみえ

男女共同参画最先進県の鳥取県から男女共同参画センター「よりん彩」所長、片山彦志さんを講師にお迎えし、講演会と意見交換を行いました。

片山所長から鳥取県の組織・理念・機能、「よりん彩」の位置づけや取組事業をお話いただいた後、三重県や市町の男女共同参画を推進するためにどうやるか、片山所長へ参加者から次々と質問や意見が続く活発な話し合いとなり、全員参加型の話し合いを目指し参加者の意見を表示するために用意した青・赤・黄色の札を活用する機会がないほどでした。

参加者の声:

「鳥取県では、教育現場に男女共同参画が必要という男女共同参画推進員（オンブズパーソン）からの意見で、男女共同参画センターに教員が配置されたということに感動した」



分科会③// 持続可能な農・山・漁・村のカタチ ～経営承継・相続を考える～

主催/「第31回 農山漁村のつどい」実行委員会

分科会3の「農山漁村のつどい」では、経営承継・相続について考えました。

事例報告では、突然承継が迫られた鈴鹿市の農業者、西村直也さんから、苦労が自分を強くし経営者として成長させてくれたこと、夫婦で鳥羽市菅島に移住し水産業を営む小寺めぐみさんからは、異業種との連携で地域や水産業をつなぐ姿が報告されました。

その後、前川浩一税理士より、「知ってトクする! 相続・事業承継の基礎知識」と題して講演いただきました。

「承継のカタチは、親族内は減少し、多様化している。後継者育成を考えると、早くから準備をすることが重要」など、前川氏自身も一年前に承継された経験を交え、相続や法人化の基礎知識をご教授いただきました。

持続可能な農山漁村を築いていくためには、常日頃から、不安要素を取り除いて未来に向かう話し合いの場が大切で、そのうえで、男女に関わらず一人ひとりの前向きな意識と行動を育てることが重要であると感じる分科会となりました。



分科会④// はじめよう“おとう飯”

主催/ひろみ会

フレンテの男性講座から22年前に結成された男性料理教室「ひろみ会」。今回の分科会では、元高校家庭科教師の白井孝子さんを講師に「簡単に、手間をかけずに」できる“おとう飯”作りに挑戦する、男性料理教室を開催しました。

メニューは「飾り巻寿司」。まずは炊飯器でご飯を炊いて、その間に寿司桶や団扇を準備して…とイメージしてしまいがちですが、今回作っているのは“おとう飯”。「簡単に、手間をかけずに」の心得に従って、寿司桶は使わず、炊きたての炊飯器のご飯に直接寿司酢を混ぜ込んで寿司飯をつくるなど、調理を簡単にする工夫を織り交ぜながら2種類の巻寿司をつくりました。

参加者の皆さんからは「なるほど、これなら後片付けが楽だ」などの声をいただき、簡単に手早くできて、そしておいしい飾り巻寿司づくりを楽しんでいただきました。「経験がなくて料理なんかできない…」「家族のために立派な料理を作らなければいけない…」そんな心理的ハードルを少し下げ、まずは家族と一緒に料理を楽しんでみよう、と思ってもらえるような会になりました。



職場でも!家庭でも!きっと役立つ 男性のためのコミュニケーショントレーニング ～知っておきたいアサーティブ～@伊勢

開催日 9月8日(土)

相手も自分も大切にしながら想いを伝える「アサーティブ」について学ぶ「男性のためのコミュニケーション講座」。3回目となる今年度は、皆さまの声にお応えして地域開催(伊勢市)に!そして講師には今回も、特定非営利活動法人アサーティブジャパン認定講師の大井健司さんにお越しいただきました。

講座では、自分のコミュニケーションのクセやパターンを捉えたうえで、アサーティブの基本について学びます。参加者同士のロールプレイングも盛んに行われ、会場は大いに盛り上がりました。企業に勤務しながら講師としても活動されている大井さんからは、「〇〇すべき」という考えから生きづらさを感じた自身の経験にも触れながら、誠実で対等な人間関係をつくることの大切さについてたっぷりとお話しいただきました。

最近ではハラスメント防止の観点からも注目される「アサーティブ」。男性も女性も自分らしい毎日を送るために、まずは今の自身のコミュニケーションを見つめなおしてみませんか。



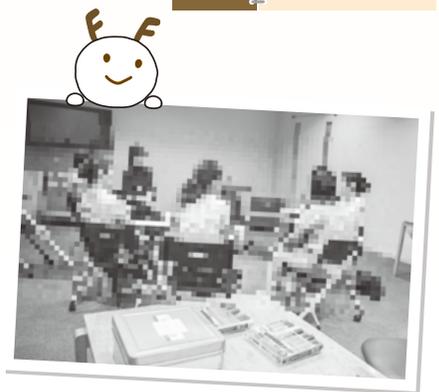
情報コーナー ミニセミナー シングル(独身)女子のおひとりさまスタイル

開催日 9月15日(土)

周りに『おひとりさま』がない、何か新しいことを始めたい、視野を広げたい、そんな30代40代の女性が参加し、シングル(独身)だからこそ味わえる自由や楽しさ、その反面感じる孤独感...などを語り合いました。

今回のセミナーの題名にある『おひとりさま』とは、自分が心地よいと感じることを実践していく、精神的に自立している人のこと。そこからまず、皆さんが『楽しいと感じること』『ひとりでもやってしまうこと』について話しました。一人旅が好きな方が数名いたり、登山が好きな方がいたり、ライフワークともいえるテーマに出会い活動している方がいたり、みなさん楽しいことは人それぞれ! お互いの話に質問したり、情報交換したりしました。後半は「今後の生活はどうしていこうか」「病気になるたら…」と、不安に感じることを共有しました。

参加者の皆さんからは「普段交流できない方たちと会えた」「自分のライフスタイルを見直す機会になった」とのお声をいただくことができました。



見る・知る・感じる 認知症ケアの知恵ぶくろ 介護する男 ～高齢化社会と認知症に向き合うために～

開催日 9月19日(水)

三重県総合文化センター3館連携事業として、「介護を楽しむ」「明るく老いる」ことを目指して開催した本イベント。そのなかからフレンテみえが企画・運営した講座の様子をご紹介します。

みなさんは男性介護者が増えていることをご存知ですか?講座ではこれまで焦点が当たりづらかった男性介護者の現状や課題、そしてそれをどのように乗り越えたらよいか、男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長の津止正敏さんにお話しいただきました。

男性は苦しい時に周囲に助けを求めることができず、自分一人だけで抱え込んでしまう傾向にあるそうです。その結果、孤立してしまったり、仕事を辞めてしまったりと特有の課題が生まれることが多いという現状をご紹介いただきました。現在では全国各地に男性介護者の会が多く発足され、少しずつ男性介護者の課題の解消につながっているそうです。

介護と聞くと辛くて大変など、ネガティブな印象を持つ方も多くいらっしゃるかもしれません。しかし津止さんは「介護の経験はきっと以前より深い人生を送れるようになる」とおっしゃり、介護を前向きにとらえることができるメッセージをいただきました。



平成30年度 女性に対する暴力防止セミナー 漂流する少女たちに寄り添って ～私たちにできることは何か～

開催日 11月18日(日)

講師/橋 ジュンさん(NPO法人BONDプロジェクト代表)

11月12～25日の内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、若年女性を取り巻く現状や、被害者への関わり方などについてのセミナーを開催しました。

講師の橋さんから、少女たちが抱える生きづらさ、支援を必要とする子ほど支援に繋がりにくい背景、少女たちを性的搾取しようとする大人の存在、保護につながっても結局行き場がなく、さまようことになってしまう少女たちの現実についてお話をいただきました。

そのような行き場のない少女たちを保護し自立できるように支える活動をする中で橋さんが大事にしていることは、少女たちの可能性を信じ、一人ひとりの葛藤に寄り添うことだというお話がありました。

実際に起きた事例を交えた対応例などもあり、少女たちが受ける性暴力の実態や、大人がそれを理解し、どんな支援ができるかを考えるための気づきとなる講座になりました。



平成30年度 内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」 総文パープルライトアップ2018

開催日 11月10日(土)～25日(日)

やさしい紫色の光には「ひとりで悩まないで」という願いが込められています。今年も、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、三重県総合文化センターの祝祭広場を紫色の光で照らしました。また、手作り企画のミニイベント“みんなで大きなパープルリボンをつくろう!”にも、センターを訪れたたくさんの方にご参加いただきました。

「暴力」と聞くと、殴る・蹴るなどの身体的暴力を想像しがちですが、無視や人格の否定、執拗な監視などの精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないといった経済的暴力などもあります。身近に思い当たる方はいらっしゃいませんか。どんな親しい間柄だとしても、「暴力」は決して許されるものではありません。

運動期間は終了しましたが、もちろんこの問題が解決したわけではありません。来年のこの機会まで、その後もずっと、ひとりでも多くの方が誰かを支え、誰かに支えられること、そして「暴力」で苦しむ人がひとりもいなくなる世の中になることを心から願い、これからも活動を続けていきたいと思えます。



地域リーダー養成講座 in 明和町 誰もが安心できる避難所のために

開催日 10月6日(土)

昨年、尾鷲市で開催し好評を得たこの講座。今年は明和町で、昨年同様「防災・減災と男女共同参画」をテーマに、大きな災害が発生したときの避難所運営についてレクチャーとワークをとらえて考える講座を開催しました。

今年は地震、豪雨など全国各地で災害が相次いだこともあり、他人事ではない防災・減災の話。レクチャーでは、参加者の皆様は、避難所で実際に起こっている事例の話などに真剣に聞き入っていました。

講義の後は、避難所における多様性配慮について考えるワークを行い、避難者一人ひとりにどういった配慮が必要かを考えました。

参加者からは「多様な人々の違いに配慮した支援の必要性を知ることができた。」「日常の中で男女共同参画の考えをもつことが基本だと思う。」という声が聞かれ、まず一人ひとりが男女共同参画、多様性配慮の視点を持つことが災害に強いまちづくりにつながっていくことを実感されていた様子でした。



事業予告

2/24

国際女性デー2019プレイベント 手塚マキ講演会 「女性が自由に生きられる世の中へ 元ホストからのメッセージ」

悩めるすべての人へ、自分らしく生きるためのエールを。

「ホストクラブは女性がお金をむしり取られている少し怖い場所・・・。」もしかすると多くの人はそんな印象をお持ちかもしれません。しかし、かつて新宿歌舞伎町のカリスマホストだった手塚さんは、ホストクラブを「女性が社会から強いられる役割から解放される場所だ」と語ります。女性たちはホストクラブに一体何を求め、またどのように強いられる役割から解放されるのでしょうか。

現在、新宿歌舞伎町でホストクラブ、BAR、飲食店、美容、歌舞伎町初の書店など、多数の店舗を経営する手塚さん。その目に、ホストクラブを訪れる女性たちの姿はどのように映っているのか。そこには世間では語られにくい女性たちの苦悩や本音が隠れているのかもしれない。女性への差別撤廃を訴える「国際女性デー」に向けて、これからの社会の荒波を自分らしく生きるためのヒントを、手塚さんに語っていただきます。



日時 2019年2月24日(土) 13:30~15:00

会場/三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」多目的ホール

定員/200名

3/2

WHITE RIBBON RUN 2019 in みえ 走ろう。自分のために。誰かのために。



「WHITE RIBBON RUN (ホワイトリボンラン)」は、「世界では1日830人の女性が妊娠・出産・中絶を原因に命を落としている」という現実を知ってもらうために、3月8日の「国際女性デー」に先駆け、日本全国、そして世界中に参加のアクションを促すチャリティーランニングイベントです。今年度もフレンテみえでは、このチャリティーに参加。前回より会場を移し、より大きなアクションを起こします。

「誰かのために何かできることないかな…」、そう考えているあなた。「ランニングイベントに参加してみたい!」と思っているあなた。ぜひ、このチャリティーイベントにご参加ください!

※エントリー費の半額は女性支援のための寄付金になります。

日時 2019年3月2日(土) 10:00~12:00(予定)

会場/未定
(決定次第、フレンテみえHP等でご案内します)

対象/性別・年齢不問

エントリー費/中学生以上2,800円
0歳~小学生1,500円
参加賞(大会公式Tシャツ)込

参加申込/<http://www.wrun.jp/2019/>
からエントリーをお願いします

※「WHITE RIBBON RUN 2019 in みえ」の詳細は、
フレンテみえHPをご確認ください。

「ホワイトリボン」とは 白いリボンには、妊娠や出産によって亡くなった、女性たちへの哀悼の意が込められています。またある文化では「希望や命の芽吹き」を表わしています。ホワイトリボンは、女性たちの魂を悼み、その悲しみを乗り越えて明日へと希望をつなげる運動の象徴です。



(ホワイトリボン・ジャパン公式サイトより <https://white-ribbon.org/>)

2/2

情報コーナーミニセミナー 〇〇さん家の作戦会議



夫婦間のコミュニケーション、取れていますか?例えば、家事分担のことを話し合おうと思っても、照れがあったり、今さら感があって…夫婦のことについて、面と向かって話し合う機会は意外と少なかったりするのではないのでしょうか。

そんな皆さんに、フレンテみえが夫婦の家事・育児のシェアについて話し合う場を作ります! あえて家の外で話し合うことで、お互いの普段と違う一面を引き出せるかも。

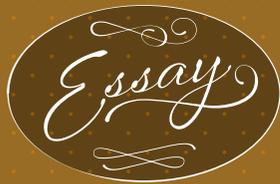
どのようにしてお互いを支え合っていくか…簡単なワークショップなどを通して「楽しく」、でも「真剣に」話し合って、夫婦の作戦をたててみましょう!

日時 2019年2月2日(土) 13:30~15:00

会場/フレンテみえ
情報コーナーレクチャースペース

定員/夫婦4組

対象/20~40代の夫婦



「あなたにとって大切なものは何ですか？」

～第3回 チームには心理的安全性が必要～

柴田 佐織

毎回ご好評いただいている情報誌エッセイ。今年度は「自分らしい働き方・生き方」をテーマに、講演活動やコンサルタントとして県内外で活躍されている柴田佐織さんのスペシャルエッセイを、4回にわたってお届けします！

第3回は、エムワンでの具体的な取組についてお話ししたいと思います。実際に行った取組はとてシンプルですぐに出来ることばかりですので、参考になるところはどんどんマネしてチャレンジしてみてください！

まず、毎週30分から1時間程度「カエル会議」を行います。カエル会議とは「早くカエル」「仕事をカエル」「人生をカエル」から名付けられています。当社は調剤薬局ですので、ホワイトボードも会議室ありません！会議はお薬を作る分包機の上でA3用紙と付箋だけを使って全員立ったまま短時間でアイデア出しをしていきます。

会議の時に大切にすることは3つだけ。一つ目は「相手の意見を否定しない」。二つ目は「傾聴」。三つ目は「その意見イイネ！」と全員で言い合うことです。

「その意見イイネ！ぜひやってみよう！」って言われた経験のある方はどのくらいいるでしょうか？会議って声の大きい人の意見が通ったり、ムダに時間が長いだけで結論が出なかったりした経験みなさんにはありませんか？働き方改革の最終目的は、業績UPと生産性向上のためだ！という話もよく聞くようになりました。

この生産性向上について、みなさんご存知の「Google」で実証されたプロジェクトがあるのです。「心理的安全性」という言葉をご存知でしょうか？自分の意見を否定されたり、笑われたりせず、受け入れてもらえるチームは心理的安全性が高く、心理的安全性が高いチームに属していると「生産性が高くなる」という結果が出ているそうです。詳しく知りたい方はGoogleのHPをご覧ください。

当社のトライアル店舗も心理的安全性が高かったことが、結果的に業績UPや生産性向上に繋がったのだと思っています。どんな意見も否定せず、チームで出たアイデアはとにかくやってみる。失敗したらまたやり直せばいい。まずはみんなが発言しやすい環境づくりをしよう！と心がけました。

具体的に行ったのは属人化していた業務の洗い出しを行い、それをスキルマップ（社員の業務遂行能力をまとめた一覧表）に落とし込み、スキルアップをしていく。いわゆる多能工化です。難しいことは一切やっていませんし、IT導入もしていませんので、費用もほとんどかかっていません。

当社の目標は有休取得100%です。スキルマップが完成していくと同時に「休みの見える化」も行いました。全員の有休残数を店舗に貼り出し、先取り有休で「いつ休む」と決める！上司が休まない部下は休みにくいので、まず上司が率先垂範で休む。全員が好きなときに休みたいと気兼ねなく言える風土を

作っていくように促していきました。だれもができる業務が増えてきた段階で、お試し休みを取って実際に回してみる。背伸びせず、スモールステップでチャレンジし続けていくことが、継続していける秘訣だと思います。

失敗を恐れていたら前に進めません！失敗して初めてどこが悪かったのか自ら気づき、それを自分たちで修正しPDCAを回していく。長い道のりでしたが上司は暖かく見守りながら、みんなが地道にコツコツやっていることを承認してあげることがとても大切です。

人には承認欲求がありますので、当時を振り返ると、スキルマップが出来上がると“私は必要ではないんじゃないか”と不安いっぱい、泣きながら私に相談に来た方もいました。

でも、このままではいけない、成長したい！一人一人が腹をくくって行動し続けたからこそより良い結果に繋がったのだと思います。

有休が気兼ねなく取れるようになり、プライベートも充実していきました。旅先で出会った方とボランティアで海外に出かけた方もいますし、異業種交流会で人脈を増やし新しい仕事に繋がった方もいます。公私ともに充実した社員が徐々に増えていきました。これこそ“ワークライフシナジー効果”！この好循環を作り出せたのはやはりチームに「心理的安全性」があり、「覚悟を決めた意思決定」があったからだと思います。

最終回は、自分らしく働くとは？これからの生き方、働き方についてお伝えしたいと思います。

柴田 佐織(しばたさおり)

キャリアコンサルタント(国家資格)
米国 CCE, Inc. 認定
GCDF-Japan キャリアカウンセラー
株式会社ワーク・ライフバランス
認定上級ワーク・ライフバランスコンサルタント
アンガーマネジメントファシリテーター



企業での採用・人事・労務・経理・営業・業務改革など様々な部署を経験。30代で自身のハードワークと病気の経験からワークライフバランスの必要性を感じ始める。現在は、株式会社エムワン人事部課長。2015年度三重県「ワークライフバランス推進サポート事業」に応募し、自社の働き方改革に着手。約1年間取組んだ結果、取組店舗の有給消化率前年比352%UP、次年度はこの取組を採用活動に活かし、ナビサイトエントリー数5倍、新卒採用数前年比2.75倍、出生率前年比2.5倍という結果に繋がった。その後株式会社エムワンの子会社として働き方改革コンサルティング会社「株式会社CREA」を設立。現在、県内外でワークライフバランスや働き方改革、イクボスを推進するためのセミナーを開催。

「トイレトペーパーの補充」などと言った、はっきりとした名前がつかない家事のことで。調査では、夫は「夫:3割、妻:7割」と答えているのに対し、妻は「夫:1割、妻:9割」と答え、意識ギャップが家事だと思っていない「名もなき家事」の存在も大きいと考えられています。

フレンテスタッフ
リレーコラム

第3回

「ワタシと男女共同参画」《4回シリーズ》
誰かは、誰かの大切な人

4月から携わることになった「男女共同参画」。「ジェンダー」や「性別役割分担意識」という言葉も以前から聞いたことはありましたが、私自身が性別に起因するような生きにくさを感じてきたかと考えると、特に思い当たりません。私の中に“無意識的の偏見”が潜んでいるとしたら、まずはその存在を知ることから始めていきたいと思っています。

私は共働き家庭のひとりっ子として育ちました。普段は仕事で不在の父。近くに頼れる親族もなく、母は家事と仕事の両立に育児も加わる不安を抱えながらの出産で、生後54日目で私を保育所に預け仕事に復帰しました。母が休日出勤の日には父が迎えを担当。家の外でもたくさんの方にお世話になりましたが、発熱した子どもを一人、初めて家に残して仕事に行かざるをえなかった時の母の辛そうな顔を、今もふと思ひ出すことがあります。

仕事が多忙になるにつれ家庭との両立に時間と心の余裕が保ちづらくなって色々悩み葛藤するなかでも、持ち前の明るい性格で乗り切ったようです。仕事にも家庭にも真摯に向き合ってきた母をとっても尊敬しています。「女らしさ」を押し付

けられることも、束縛や干渉とも無縁で、少しの寂しさはあっても不自由さを感じることはありませんでした。在宅が長い私は自然と家事に興味を持つようになり、両親が出来ない手作りやひと手間を喜んでくれるのも嬉しくて、今はいつしか憧れにもなっていた“丁寧な暮らし”を楽しんでいます。

そんな家庭で育った私も、それなりに大人社会で揉まれ、色々な経験をしてきました。

無意識の偏見にはまだ気づいていないだけかもしれませんが、男性なのに、女性なのに性別で分けるより、良くも悪くもその人柄の一部、「個性」として捉えるほうが、性差への偏見が生じにくいように思います。そして、性別に関わらず、多くの選択肢の中から自分の意志で選べる社会になっていくといいなと思います。男性も女性も、ひとりでも多くの人がもっと自由に生きられたら、不必要に委縮することも肩ひじをはることもなく、言いたいことはきちんと伝えて、自分に自信を持って。不条理にあわず、加害者も被害者もない。

誰かは、誰かの大切な人です。

みんなが気持ちよく暮らせる、働ける社会にどうすればいいのか。私も一緒に考えていきたいと思っています。

このコーナーでは、毎回フレンテみえの職員がそれぞれの仕事を通して感じる「男女共同参画」への想いや考えをリレーで綴ってまいります。次回もお楽しみに！

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ



生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

☎ 女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ 専用ダイヤル 059-233-1133 相談室

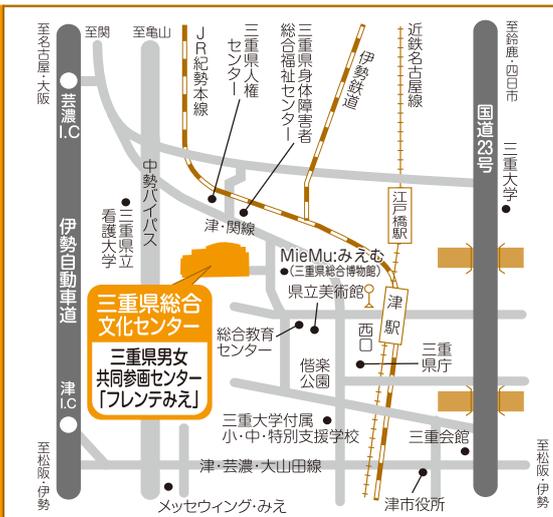
| 相談時間 | 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 朝 9:00~12:00 | 休館日 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 昼 13:00~15:30 | ※ | ● | — | — | ● | ● | ● | ● |
| 夜 17:00~19:00 | ※ | — | — | ● | — | — | — | — |

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか女性のための面接相談・法律相談・男性のための電話相談・LGBT電話相談を実施中です。詳しくはお問合せください。

フレンテみえ相談室のご案内 (切り取ってご利用ください)

三重県男女共同参画センターまでのご案内



- 休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日)
- 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1,400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

(年4回発行/次回 2月発行予定)

発行 **三重県総合文化センター**
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL 059-233-1130 FAX 059-233-1135
URL <https://www.center-mie.or.jp/frente/>
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。